

しっかりと目を見て、会話しよう

ブルーヒンメル

もくじ	(頁)
第2回青少年フォーラム	……2
大活躍した SWING-BY の若者たち	……4
知っておこう！ネット社会の今	……7
青少年健全育成推進会議の一年	……8

猪名川町青少年健全育成推進会議広報紙

発行／猪名川町青少年健全育成推進会議 会長 太田 はるよ
 連絡先／猪名川町教育委員会生涯学習課 (電話) 072-767-2600



世界に羽ばたく力を養え

青少年健全育成推進会議

会長 太田 はるよ



平素は青少年健全育成推進会議の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

子どもや若者たちを取り巻く環境は、大人がついていけないほど進化しています。そんな状況に大人が無関心であってはなりません。情報が溢れ、常に変化し続けているネット環境の「今」を生きている子どもたちの実態を知り、その情報を共有し、問題があれば解決に向け協議し、対策を実行することが必要です。

しかし、子どもたちの意見を抜きにした解決策は真の健全育成にはつながりません。平成25年度は大人に対しては、「わからない」「知らない」から「聞いたことある」「知っている」へと導き、自分たちの問題を自ら解決しようと努力する若者たちに対しては、積極的に支援する姿勢で活動しました。

また「全体会研修」「ほたるのタベ」「SWING-BY」「青少年フォーラム」などを通して「大人と若者」「大人と大人」「若者と若者」の関係づくりや、若者に携わる諸団体との連携を図ってきました。

次代を担う若者たちが猪名川町のみならず、社会に出ても自らの持てる力を余すことなく発揮し、国内に限らず、世界へ羽ばたく力を養えるよう、これからもサポートしていきます。今後とも、ご支援賜りますよう、よろしくお願いたします。

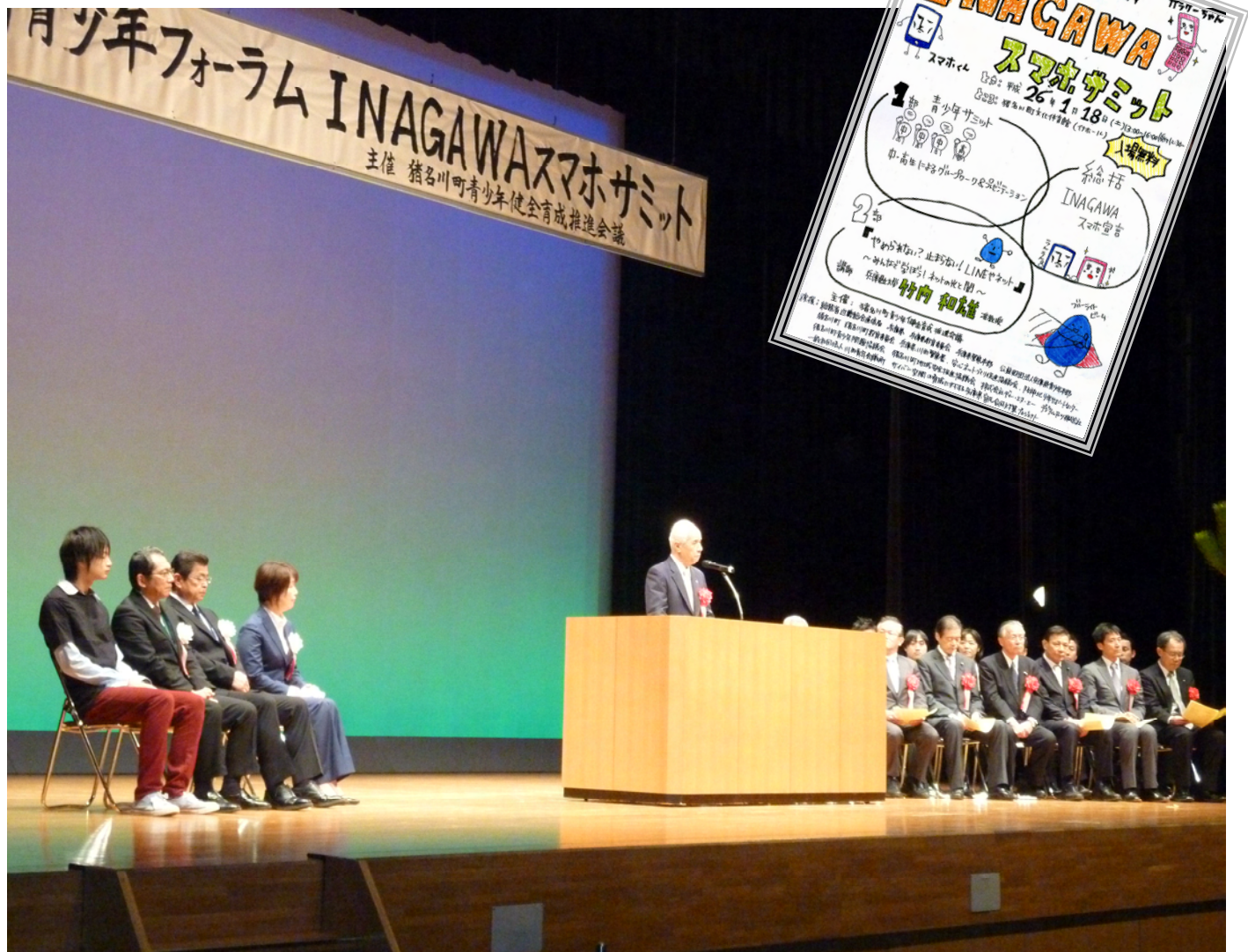
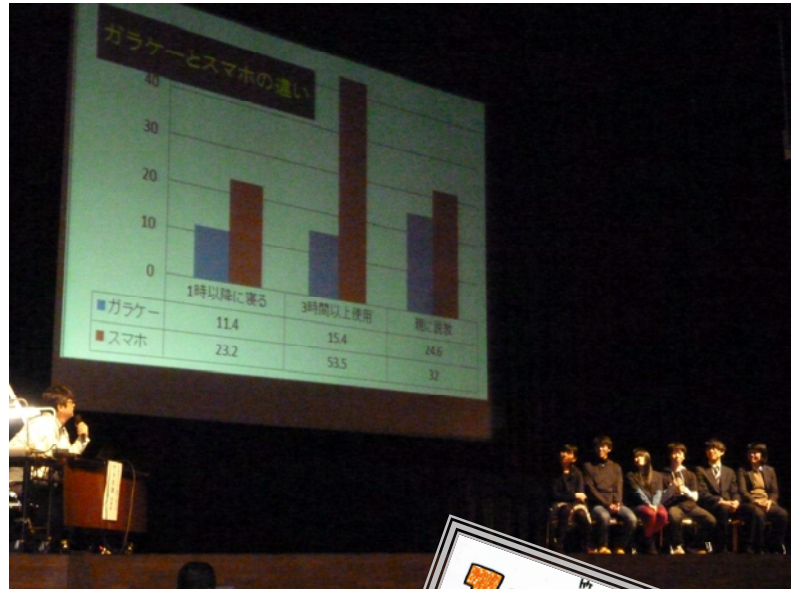
第2回青少年フォーラム INAGAWAスマホサミットを開催

全国初、中・高校生による公開討論会

青少年健全育成推進会議は、今年で2回目となる第2回青少年フォーラムを本年1月18日にイナホールで開催しました。

今回は、若者たちにとってもはや生活必需品になりつつある「スマートフォン」の使い方などをテーマに、現実社会とは次元の違うインターネット上での人間関係や個人情報取り扱いについて若者たち自身が考え、発信する内容となりました。

こうした現役の中・高校生が主体となった公開討論方式によるサミットは、全国でも初めての取り組みとなりました。



驚きの調査結果

■会ったことがない人とメール 58.6%

会場ではフォーラムの開催に先立ち、町内の中学生 1,358 人を対象に実施された「事前アンケート」の結果が発表されました。

高校生のケータイ所持率は 90.3%（スマホ 82.4%、ガラケー7.9%）。また、スマホ所持者全員への設問「会ったことがない人とメールやLINEをした」に対し 58.6%の中学生が「ある」と回答したとの報告がありました。

■実際に会った女子高生 29.5%

特に驚かされたのは、スマホ所持者に対する設問「ネットで知り合った人と実際に会った」に 16.9%の中学生が回答した中、そのうち約 3 人に 1 人にあたる 29.5%が女子高生の回答であったということです。中学生の人との出会いのきっかけとして、インターネットを介した「スマホ」の使用が明らかとなる調査結果となりました。

現実社会を大切に

■目指せ「リア充」

こうした調査結果を踏まえ、会場では中学生が 3 グループに分かれ、スマホのメリット・デメリット、使用する際のルールなどについて公開討議を行い、そのまとめをそれぞれステージで発表しました。コンクール方式によるプレゼンで高い評価があったグループのアピールは、「ネットに逃避せず、現実生活が充実している自分（リア充）を目指そうではないか」という問題提起でした。他にも次のような意見が出ていました。

- ・LINE だけでなく目を見て話すことが大切
- ・いわゆる「既読スルー」を気にしない
- ・スマホの機能を理解した上でダウンロード
- ・あらかじめ、使用時間を決めておく
- ・困ったら、親や友人に相談する

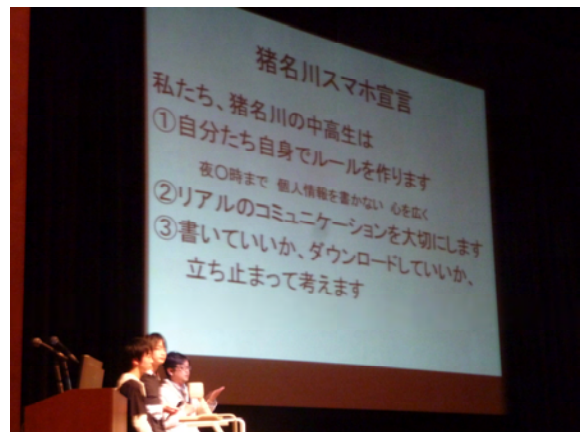


■大人の責務が問われる時代

また、サミットには、兵庫県立大学で青少年問題を調査研究している学生グループも参加し、スマホに関する若者の現状や、問題意識などの報告がありました。

この中で、大学生の下村さんは、広島でのLINE殺人事件や店が閉店に追い込まれたTwitterによる不適切なバイト先投稿写真問題などに触れ、若者の中には「目立ちたい、悪いことしている自分がカッコいい」という意識が働き、事の善悪の区別がないまま行動に移す人が増えてきている現状があると報告。「子どもたちと大人がもっとネットリテラシーを学び、たった1枚の写真で人生を棒に振ることにならないよう、『大人』が教えていかなければならない」と指摘し、ネット社会での大人の責務が問われる時代になっていることを提起されました。

サミット宣言を採択



■自分たち自身でルールを作る

サミットの終盤では、当日のグループ討議やプレゼンをもとに、スマホとの付き合い方をまとめた「猪名川スマホサミット宣言」が提案され、全会一致により採択されました。

発案した若者たちの中からは、「このサミット宣言の発信を機に、若者のスマホに関する『取扱説明書』や使用に関する『ガイドライン（生徒手帳づくり）』を中学生が中心になって作成し、小学生などに教えていこう」と意欲的な意見などが提起されました。

大活躍した「SWING-BY」の若者たち

2013年度の青少年健全育成推進会議活動については、「SWING-BY」の若者たちを抜きにして語ることはできません。

県立猪名川高校の生徒を中心に集まった若者 26名は、これまでに先輩たちが開催してきた音楽祭「TEENS' MUSIC FESTIVAL」や、後継イベント「BEAT!!」の継続的な実施とならないよう、また単発的な夏のイベントとならないよう、自らの意思で「SWING-BYプロジェクト～無限への挑戦～」を企画しました。

夏の音楽祭の開催はもとより、早朝の日生中央駅前での挨拶運動や清掃活動をはじめ、「ほたるのタベ」や「日生夏祭り」における地域貢献活動、阪神北少年サポートセンター等との連携による「少年を守る日」街頭啓発活動への参加など、彼らにとって、当推進会議が進める様々な青少年健全育成にかかる事業展開と並行して取り組んだ活動は、当初予定していたプロジェクトの範囲を超えるものとなり、文字どおり「限界に挑戦した1年」でした。

また、本年1月に開催した「第2回青少年フォーラム」では、公開討論会での主導的な役割を果たすとともに、当日採択された「INAGAWA スマホサミット宣言」を地域に発信し、スマホに関するガイドラインを策定しようとしています。

当推進会議は、こうした意欲的で活発な「SWING-BY」の若者たちに対し、健全な青少年の模範となることを期待し、可能な限りの支援や協力体制を組むこととしています。

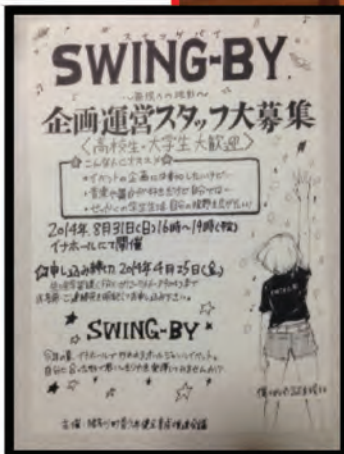


<SWING-BY プロジェクトの概要>

- ・コンセプトは「若い力で地域の活性化をはかる！」「できることは何でもやる！」
- ・8月1日～31日のプロジェクト期間中は、ボランティア活動や「SWING-BY」に関する広報活動などを地域で積極的に展開する。
- ・具体的な取り組みとして、日生中央駅前での「挨拶運動」と「清掃活動」を行う。
- ・この他、福祉施設への訪問や、地域の夏祭りのお手伝い、模擬店の出店など、様々なオーダーに対しては、青少年健全育成推進会の役員と相談しながら、積極的に対応する。

SWING-BY オンステージ

8月31日、イナホールで若者による音楽祭を開催。ダンスやバンド演奏など7つのユニットが出演し、会場は若者のパワーで熱気に包まれ、大いに盛り上がりました。



ステージの外（ロビー）では、8月のプロジェクトを紹介する掲示板が設けられました。受付もすべて若者自身による手作りとなっていました。

2014年度スタッフ、早くも大募集です

<SWING-BY 活動日誌>

- H25.4.7 準備委員会発足
- 4.13 猪名川高校等の生徒にスタッフとしての参加依頼
 - 5.8 県立4高校へスタッフ募集依頼
 - 5.17 「SWING-BYプロジェクト」を確認
 - 5.26 スタッフ説明会
 - 6.8 ほたるの夕べ（演奏&模擬店）
 - 6.11 音楽祭出演者募集
 - 6.16 第1回実行委員会（活動本格始動）
 - 6.23 第2回実行委員会（コンセプト確認）
 - 7.6 あじさいまつり（演奏）
 - 7.10 少年を守る日・青少年健全育成キャンペーン（啓発活動）
 - 7.10 第3回実行委員会（清掃日程確認）
 - 7.18 第4回実行委員会
 - 7.27 日生夏祭り（準備、模擬店、ステージ）
 - 7.28 本部会議
 - 7.29 音楽祭出演者への説明会
 - 7.30 第5回実行委員会
 - 8.1 「SWING-BYプロジェクト」始動
 - 8.8 町子連「オセロ大会」（スタッフ）
 - 8.21 ゆうあいセンター訪問（ボランティア）
 - 8.31 音楽祭「SWING-BY~無限への挑戦~」
 - 9.15 川西警察署長杯ミニバイク Race Festa（打ち合わせ）
 - 9.23 川西警察署長杯ミニバイク Race Festa（演奏）

※以降、毎月第3金曜日に実行委員会を開催し、現在も「プロジェクト」の理念を拡充させた様々な活動について協議を重ねています。



猪名川サーキットでバンド演奏



少年を守る日キャンペーン



あじさいまつりでアピール



清掃活動&模擬店出店



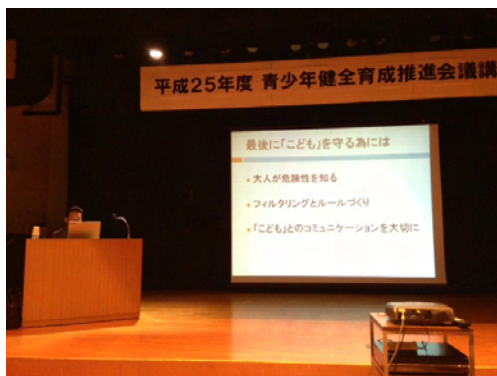
地域のお祭りをお手伝い

知っておこう！ネット社会の今

青少年健全育成推進会議は、第2回全体会（平成25年7月12日開催）、及び第3回全体会（平成25年10月10日開催）の中で、役員等を対象にそれぞれ講演会を実施し、スマホ時代における子ども・若者たちの環境について、「まずは大人が知っておく」という観点による学びの場を共有しました。

第1回講演会

- ◇テーマ：もっと大人が知ろう！子どもたちのネット環境の現実
～携帯電話（スマートフォン）SNSの甘い罠～
◇講師：阪神北少年サポートセンター
所長 池岡 久雄さん



■子どもを守る3つの視点

インターネットやスマホの普及により、犯罪に巻き込まれる子どもたちが急増している現状が報告されるとともに、講師の池岡さんは、子どもを守るポイントして次の3点を提起されました。

- ①まず、大人がスマホや、SNSの危険性を知ること
- ②携帯電話会社等が提供するフィルタリングサービスなどで適切な管理を行い、子どもの成長段階に応じて利用に関するルールを作ること
- ③常に、子どもとのコミュニケーションを大切にすること



第2回講演会

- ◇テーマ：スマホ時代に大人が知っておきたいこと～LINE、Facebook、Twitterの落とし穴～
◇講師：NIT 情報技術推進ネットワーク
（兵庫県警察サイバーパトロールモニター）
松尾 由香里さん



■子どもたちは狙われている

子どもたちが持つゲーム機は既にインターネットの端末となっている現状や、Wi-Fi 環境の整ったコンビニ前でゲームを楽しむ子どもたちの顔写真を盗撮しようとする悪意をもった人間の話など、子どもたちのネット環境が危険にさらされていることを学びました。

講師の松尾さんは、警察権限をもっても完全に消去することのできないネット上の子どもの顔写真等は絶対にアップしないよう、参加者に注意喚起されていました。



スマホ時代の「甘い罠」と「落とし穴」

青少年健全育成推進会議の一年



ほたるのタベで
「焼きそば」出店 & パトロール



いながわ祭りで啓発活動



青少年問題協議会へ出席

<平成 25 年度年間活動日誌>

H25.5.16 第 1 回全体会

6.1 平成 25 年度総会

6.8 ほたるのタベ (パトロール&模擬店)

7.10 ブルーヒンメル「総会特集号」発行

7.12 第 2 回全体会 (第 1 回講演会)

8.31 SWING-BY~無限への挑戦

10.10 第 3 回全体会 (第 2 回講演会)

11.3 子ども・若者健全育成月間啓発活動

H26.1.18 第 2 回青少年フォーラム

<その他の活動>

- ・役員会 (毎月)
 - ・各中学校区委員会 (随時)
 - ・ブルーヒンメルの発行
 - ・青少年指導員としてのパトロール
 - ・阪神間及び町内の関係団体主催行事への出席
- #### <連携活動>
- ・青少年問題協議会 (年 2 回)
 - ・猪名川町こころ豊かなまちづくり運動推進協議会
 - ・地域安全推進協議会
 - ・木津総合会館運営審議会
 - ・木津総合会館及び清水東会館あり方検討協議会

編集後記

「スマホ」「LINE」など青推会の会議に参加することで、その功罪を全てではないにしろ詳しく学ぶことができた。子どもたちの「スマホ宣言」が出た。次は、大人の番だ。

子どもたちは、先端の技術への順応が大人に比べ断然速い。その差が子どもたちの問題につながる可能性があるが、差を埋めるのは我々大人のあり方に左右されるのではないか。

「今の子の考え方はおかしいよ」そう言う前に、まず大人がスマホのことを学び、子どもの「目を見て」話しかけていく努力をしなければならないと強く感じる。少しずつでもやっつけよう。「為せば成る、しかし為さねば成らぬ」まだまだガラケーだけれど、良い方向に前進しなければと強く感じる。

広報委員：K